



子どもが売られない世界をつくる  
認定NPO法人 かものはしプロジェクト

私はもう、  
ひとりじゃない。  
あなたはもう、  
ひとりじゃない。

認定NPO法人かものはしプロジェクト  
2020年度年次報告書

2020  
2021

Kamonohashi-project Annual Report

# 隣り合わせの 生と死の「間」で

2021年4月、インドにおける新型コロナウイルス感染症第2波は、存じの通り、爆発的な感染者数及び死者数となった。私たちがものはしインドチームの中にも感染者が出て、バートナー団体の職員及びサバイバーリーダーたちの多くも感染、サバイバーリーダーのご家族たちが命を落としていった。誰しもが、本当に誰しもが、身近なところでたくさんの死と隣り合わせの状況が続き、次々と舞い込んでくる悲しい知らせに耳をふさぎたくなる思いだった。医療崩壊と圧倒的な医師・医療物資不足も相まって、明日誰が死んでもお

かしくない状況は、戦場を思わせる。私がチームを通して感じていたインドの5月は、まさに戦場だった。

昨年3月〜7月に行った緊急支援を切り切った後、私はその緊張から自身を解放するのに、長い時間がかかった。途中、自分が多くの感覚を抑圧することで必死にあの時期を乗り越えたのだということに気付いた瞬間、私は愕然とした。だからこそ、この第2波が、気づいたら目の前にいて、しかもものすごいスピードでたくさん命を吸い取っていくのを見たとき、

自分の中に大きな恐怖が芽生えた。そして、私の大事な人が感染したと知り、自分の中でパニックを起こしかけていた。遠い東京で、入ってくる情報を選択できる私ですらそんな状態だったので、当然現場やインドチームは集団パニック、ピーク時はおそらく集団ヒステリーを起こしていたと言っても過言ではないだろう。

この1年の間に私が学んだことは、外側で起きている状況に引張られる自分の内側を、エネルギーを込めて耕し、整えることによって、外の世界に違うエネルギーを送り出すことが、実は結構場の空気感を変え、最終的には物事の流れていく方向を変えることがある、ということだ。そして、第2波の入り口でインタビュアーに伝えてくれた3人のソーシャルワーカーたちも、同じシードワーク<sup>※</sup>を受けた同志として、同じように現場で踏ん張っている。かものはしインドチームの皆も最善を尽くして、パニックを増幅するのではなく吸収する役割を、一緒に担ってくれている。

パニックの最中上がってきたサバイバーリーダーたちの悲痛な声と緊急支援依頼。刻々と変化する彼らの状況に臨機応変に対応できるよう、かものはしは一部、予算費目の変更をして緊急支援第2弾を実施する意思決定を行った。手元にお金がない、借金を繰り返す、もう貸してくれる人すらいない、それはこの戦場のような状況の中で絶望をもたらす。絶望は家族関係を壊し、人の心を捻じ曲げる力を持っている。だからこそ、そんな状況に彼らをこれ以上追いやらないですむよう、そして依存関係を強化しないよう十分配慮して、かものはしは緊急支援第2弾を実行するところに、今、この瞬間立っている。

Written by

清水 友美

Tomomi Shimizu

インド事業部ディレクター。2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士過程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。

Kamonohashi in

# INDIA

2020年度のインド事業部

※シードワークとは、Healing Between Worlds<sup>TM</sup>が提供する「ギフトシードの旅」のこと。生まれながらに自分が授かった力や使命、過去の先人から譲り受けたギフトから、自分のアイデンティティの本質とつながるワーク。かものはしは、2019年7月に、Healing Between Worlds<sup>TM</sup>や森川有理さんのご協力のものと、サバイバーリーダー15人とソーシャルワーカー3人を対象にこのワークを実施。



インド事業報告 Programmes in India

向かい風だらけだった1年  
でも確かなインパクトを感じた

# TAFTEESH

[タフティーシュ]

## 子どもが売られない社会の仕組みを作るプログラム

人身売買の被害にあった女性たちが、権利・正義を取り戻せるよう、社会の仕組み作りに取り組むタフティーシュ事業は、8年目に入りました。2020年度は、コロナ禍でロックダウンとなり厳しい生活を余儀なくされたサバイバーたちへの緊急支援からスタートし、その後、中期戦略計画(2019~2024年)に基づいて、継続して裁判支援、サバイバーの生活再建を基軸に、刑事司法制度や福祉制度の強化に取り組みました。2021年3月末時点で、191人のサバイバーを支援しています。

### 新たな挑戦も交えながら 粘り強く着実な変化を

2020年度のタフティーシュ事業で特筆すべき点は、左記表のとおりです。

また、2020年度を通じて、人身売買被害者に対する被害者

補償のシステム強化は順調に推移しています。そして、人身売買犯罪捜査においても、同犯罪への捜査権限を持たない地元警察が担当していた状態から、次第に人身売買特別警察に捜査担当を移管するプロセスが起き始めていることを確認しています。これらの各軸で起きている前向きな変容

を統合し、サバイバーの足元の生活レベル、及び実際の被害者数減少までインパクトを出すために、今後モニタリングの視座を変え、モニタリングの強化や、データに基づく計画の軌道修正を行っていく予定です。

### 「もうひとりじゃない」

一方、2020年度は、これまで休みなく働き続けてきたソーシャルワーカーやNGOのリーダーたちの疲弊感、閉塞感が顕著に出た一年でもありました。新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウン、移動制限、そして死が家族や身近に迫っていることに加え、外国貢献規制法の改正、運用ルールの変更など、インドのNGOセクターに対する実質的な締め付けとも言えるような規制の強化が、彼らに追い打ちをかけた。そのため、サバイバー支

### 2020年度タフティーシュ事業のハイライト

- 1 パートナー団体のスタッフ53人にメンタルヘルス支援を実施
- 2 デジタルマーケティング(クラウドファンディング・オンライン署名・オンラインイベント等)を活用して、人身売買問題に深く関わる出稼ぎ労働の問題について訴える「Let's Talk Labour(労働について話そう)」キャンペーンを実施
- 3 全世界における人身売買予防事業の傾向とインパクトに関する調査の実施
- 4 サバイバーの置かれた状況やケースの情報などを管理、分析するためのMIS(情報システム)の再構築
- 5 タフティーシュ事業で連携している弁護士グループと国選弁護人との協働、及び裁判支援を行っているケースの担当を国選弁護人へ移行
- 6 人身売買特別警察の現状調査と強化キャンペーンの実施

Partnership with

Co-financed by

期間	2019年9月 ~ 2022年11月
事業費	1億5284万円(1ドル=107円)
2020年度支出実績	3635万円

OAK FOUNDATION

やさしい強さを持った  
リーダーシップが生まれ、  
広がっていく



# LEADERSHIP NEXT

[リーダーシップネクスト]

## サバイバーのリーダーシップ事業

2018年から支援しているサバイバーリーダーシッププログラム(今年度よりリーダーシップネクストに事業名変更)は、人身売買の被害を生き抜いてきたサバイバーたちが、社会を変えるリーダーへと成長することを支援する事業です。今年度から、労働搾取を目的とした人身売買を生き抜いてきた10人のリーダーたちが新たに加わり、総勢211人のサバイバーリーダーたちがそれぞれのリーダーシップを発揮しながら、被害者支援、地元行政・警察・メディアへの働きかけ等の活動を行いました。またそれを通して、グループ内、NGO、家族とたくさんぶつかり、たくさん悩み、リーダーシップの在り方を磨いてきました。

### コロナ禍で誰ひとり被害にあわせない

コロナ禍の影響を大きく受け、ロックダウンによって過去のトラウマがフラッシュバックしたり、出稼ぎに出ている家族が失業して世帯収入が底をついてしまったりと、苦境の中で今年度をスタートしました。それでも誰ひとり餓死者を出さず、誰ひとり人身売買の被害にあわず、この一年を終えられたのは、彼らがお互いを必死に支え続け、それをタフティーシユのよきなNGO・専門家集団がそばで見守りながら、全力でサポートし続けたからだと感じています。

### それぞれの豊かなリーダーシップ

2020年8月から始まった第2期では、13のサバイバーグループが、各々個別の事業目標・計画・予

算を立てました。お金を管理するスキルの向上とそれぞれが望む分野の研修(グループ内コンフリクトマネジメントの研修やコミュニティ・ファシリテーターになるための研修など)が、全事業計画に共通項目としてありますが、それ以外は個々のグループの文脈、希望、夢をベースに非常に多様な計画となっています。かものはしは、個々のリーダーシップが、これらの活動を通じてどういう軌跡をたどり、それが反人身売買システム進化にどう貢献するのかをモニタリングしています。

また、2019年に立ち上がったインド反人身売買リーダー連盟(ILFAT: Indian Leadership Forum Against Trafficking)は2020年11月に一歳の誕生日を迎えました。新たなサバイバーグループがラジャスタン州から参加し、今年度は、ロックダウンに

よって失業し家に戻らざるを得なかった出稼ぎ労働者を支援するキャンペーンの実施や、労働安全衛生や労働条件に関して規律する「労働安全衛生法」について、政府機関との意見交換等を行いました。



ILFAT誕生の1周年記念を祝うサバイバーリーダーたち

Partnership with

Supported by

期間	① 2018年2月～2020年7月	② 2020年8月～2021年7月
事業費	① 1億880万円(1ドル=109円)	② 6742万円(1ルピー=1.47円)
2020年度支出実績	① 1601万円	② 4028万円

## 見えてきた反人身売買システムの根底にあるもの

# RESPOND > SOLVE > EVOLVE

[レスポンド・ソルブ・エボルフ]

人身売買問題のシステム全容とリーダーシップ特性調査

これまで常に、どの現地NGOを支援することが、最も早く本質的に人身売買の問題を解決できるのかを悩んでは、入手したデータの分析や人身売買トレンドの把握をしながら、刻々と変わるシステムの状況にあわせて支援を決めてきました。しかし、システムの一部ではないデータをどんなに分析しても、



調査時に訪問したNGOのメンバーたち

それはシステムの一部の姿を切り取ることでできません。そこで、本質的にシステム進化を支援するため、反人身売買セクターの横断的な全容調査を委託実施しました。また、事業がインパクトを出せるかどうかは、組織のリーダーシップが関係しているため、インド16州59団体の118人を対象にリーダーシップ傾向調査も行いました。

その結果、多くのNGOが、インパクトが出ていないと思いつつも、これまでと同じことを継続しているということが分かりました。その背景には、「人身売買」という個人の力量をはるかに超えた大きな犯罪と、それを生み出している不均衡な社会構造の前に、多くのリーダーたちがやるせない想いを抱え、それでも歯を食いしばって、少しでも前に進む努力を全力でしてきた姿が見えてきました。システム進化のためには、その機能不全を示すデータを還元し、時にシステムと対立しながらも継続的に関与し続ける必要があります。

ります。システムの持つパワーに圧倒され、自分の非力さを嘆きながら迎合するだけでは、システムは変わりません。しかしこのセクターの多くの人が、人々のためになる活動をしているという自負心と、やっても変わらないじゃないかという鬱積した相反する感情を持ちながら活動してきた結果、これまでの反人身売買システムの進化が限定的だったことが、この調査で見えてきました。



委託先  
SATTVA, Reflexive Lenses Consulting, change mantras

期間 2019年11月～2021年2月  
事業費 448万円(1ルピー=1.48円)  
2020年度支出実績 290万円

## 個々人の湧き出るエネルギーの先にこそ反人身売買システムの進化がある

リーダーシップ傾向調査の結果を元に、「反人身売買システムリーダーシップ事業」を立案すべく、パイロット調査を開始しました。これらリーダーの多くはアクティビスト(活動家)です。アクティビストは、「動く」として重点を置く一方、立ち止まって自分の内側や気持ち、自身のリーダーシップの内省に時間を使うことのためにいる人がいます(その間に救える人がいるかもしれないと思うため)。「スキルアップ」は正当化されても、リーダーとしての「在り方の模索」に時間や資金を投資するドナーがいなかったことも関係しています。

この調査では、15人のリーダーたちが歩んできた「リーダーシップの軌跡」に耳を傾けます。

価値判断せずに傾聴するプロセスの中で、①リーダー個々人が背負ってきた重荷は、実はセクター全体の重荷であるという理解が形成され、②このセクターのリーダーシップ文化こそが、人身売買がなくなるか否かを決める最も重要な要素だ、という認識が育つことを目的にしています。これまで7人の話を聞き、リーダーシップ事業とは、個々の人生を紐解いていく作業だと感じています。他者による「外観」と、彼らが内側から見ている「内観」には当然認識差異がある中で、「外観」に基づく価値判断による介入ではなく、彼らの内側から、人間性や尊厳などに対して湧き出てくるエネルギーを、反人身売買システムの進化につなげていく、そんな事業にしたいと思っています。尚、私た

ちドナーも、問題解決を優先させるがゆえにそこで働く「人」を忘れることがあります。その積み重ねが今のセクターのリーダーシップ傾向に影響を与えてきたという自戒も込めて、かものはしも当事者としてこの事業に関わっていきたいと思っています。



委託先  
change mantras, Reflexive Lenses Consulting

期間 2020年7月～2021年6月  
事業費 614万円(1ルピー=1.46円)  
2020年度支出実績 82万円

# WE THE LEADERS

[ウィー・ザ・リーダーズ]

人身売買撲滅を牽引してきたリーダーたちの軌跡



# Thinking of you

#あなたを想って空に手を

## FROM JAPAN TO INDIA

日本からインドへ写真で想いを伝えるWEBページに投稿いただいた写真の一部です。詳しくはP.21をご覧ください。

# 誰もが 生まれてきて よかったと思える 社会を目指して

——市民とともに

Kamonohashi in

# JAPAN

2020年度の日本事業部

Written by

かものはしプロジェクト共同創業者

**本木 恵介**

Keisuke Motoki

東京大学3年生のときに共同創業者の村田と青木と出会い、2002年にかものはしプロジェクトを設立。2006年からカンボジア事業、2012年からはインド事業、2020年からは日本事業と軸足を移してきた。

## 日本の子どもたちの状況

子どもたちが暴力をうけ、助けを求めた声が届かず亡くなったり、暴力をふるった親も社会から暴力をうけていた。そのような記事を見かけると思わず画面を閉じたくなる。私は、カンボジアやインドで売り飛ばされ殴ら

れ蹴られ、あるいは家族のために我慢して自分の身を売る子どもたちや女性たちと接してきた。そういうことにある意味で慣れている自分にとつても、自分が生まれ育った社会の中で苦しんでいる人たちがいるというのは目を背けたくなる。これが率直な心情だ。そして、自分の生まれ育った社会だからこそ、物事がより深く見え、この問題は簡単に解決できないだろうと無力感をより深く感じてしまう。子どもがすくすくと育つ社会であってほしい。

なぜ虐待をしてしまい、虐待をされ、そして命が亡くなってしまうことをとめられないのか？多くの人が努力している。その尽力には本当に頭が下がる。でも、状況

が少しずつしか変わらない。もう変わらないんじゃないかという絶望的な気持ちがある。

## 市民の力が社会を育む

——アジアにおける児童買春問題

私たちが向き合ってきたアジアにおける児童買春・人身売買問題も当初同じような状況だった。しかし、この数十年で大きく問題解決に向かっている。市民の力によって。

児童買春・人身売買問題が解決に向けて大きな前進をしたのは、80年代にフィリピンやタイで問題に気づいた市民たちが声を上げ始めたことがきっかけだ。日本や欧米の観光客によって幼い子どもたちが性的な玩具にされているとい

うことに気づいた市民たちが、国際NGOを組織し、政府や国際機関などを動かしてきた。1996年には世界会議が開催され、約130カ国が参加した。2001年には第二回世界会議が日本で開催され、村田が若者代表として参加した。2002年にかものはしプロジェクトを創立した。

各国で法律が制定され行動計画が策定された。タイ・フィリピンにおいては2000年頃にはすでに対策が打たれ、幼い子どもを買うことはかなり難しくなった。一方で、内戦が続いたカンボジアや、社会問題が複雑に絡み合うインドでは、問題解決の進捗は遅かった。それでも2000年代、2010年代と着実に前進した。

# 子どもたちの声を 尊重することができ 社会を創っていく

多くの人の努力により、社会はまた一歩人々の尊厳を守るために前に進んだ。そして、それは市民の声が起点になっている。市民の声が起点となって、政府を動かす、グローバルな流れが創られ、世界が変わっていった。しばしば、私たち一人一人は自分たちの無力感を呪うけれど、私たちには社会を良くするための力がある。私はこの19年間の活動の中でそのことを学び、この苦しくて難しい日本での問題にも向き合っていく勇気をもった。

解決するのに30年、50年かかるというのは搾取されている子どもたちにとってはあまりにも長すぎる時間だ。そうであっても、長い時間がかかっても社会は良くなる。だから、私たちはどういう世界を創っていききたいのか、夢を描いてそれを一歩一歩実現していきたいと思っている。私たちは今、誰もが生まれてきてよかったと思える社会をつくっていききたいと夢を描いている。そして、それを多くの人とともにつくっていくと決意をした。日本社会で虐待をはじめと

する子どもや家族をめぐる不条理な状況をなくしていく。

## 活動の指針

— 地域で子どもを育てる

かものはしの日本事業は、2019年度に事業を開始し、試行錯誤を重ねた。2020年度には左に記した3つの活動を約10のパートナーとともに行った。その背景を共有していきたい。

- 1 官民の垣根を超えた地域連携・協働で、虐待を予防するコレクティブ・インパクト事業
- 2 当事者の声を現場の支援や制度に反映させるVOICE事業
- 3 社会的養護を巣立った若者への緊急支援若者緊急基金

子どもや家族を取り巻く不条理な問題はとても複雑だ。親子の関係性、貧困、教育、地域の問題などさまざまなことが絡み合っている。そして、すでに多くの人が活動し、政府自身も問題を認識し解決のための政策を重ねているが、解決に至っていない問題だ。現時点では、「こうしたら解決する」ということは見つけられていないが、こういう方向性なのではないかということは見えてくる。それは「子どもを地域で育てていく」ということと、「当事者の声を現場の支援や制度に反映させる」ということだ。

昭和から平成、令和と、さまざまな「集まり」が減っていった。例えば親族のつながり、子ども会、職場の集まり。また、家族のあり方は多様化した。例えば共働き家庭やシングルペアレントの家庭が増えた。しかし、社会保障のあり方はそれに対応することができていない。それらの結果として、子育ては「孤育て」となった。

その一方で、良い動きもある。社会全体の意識の高まりだ。虐待を、身体的な暴力だけではなく、言葉による暴力やネグレクト（子育ての放棄）も子どもを傷つける虐待であると社会全体の中で認識が深まった。同時に関連した活動をする人が増えた。例えば子ども食堂は5000箇所を超えている。虐待に関して行政に通告（通報）される件数が増加している背景も社会の中での認識の高まりの一つであろう。また、2016年には児童福祉法が改正され、家庭やそれに近い環境で子どもを育むことを重視した政策が展開されている。社会はゆっくりとではあるけれど変化をしてくれている。

こうした流れの中で自分たちも貢献していきたい。地域の中でも子どもが育ち、必要に応じて保護される「地域エコシステム（生態系）」を育みたい。しかし、現状では、地縁・血縁や職場の縁が自然に広がり、また、その濃厚な人間関係の中で政府と民間が連携されるようなことを期待するのは

難しい。そこで私たちは、特定非営利活動法人エイティックとパートナーシップを組み、活動しているさまざまな人たちの関係性を育む「縁の下の力持ち（＝地域の中でのコーディネート）」という役割を担うリーダー・組織を支援する事業を開始した。二緒させていただいているのは、岡山NPOセンター（岡山）、グッド・エイジング・エールズ（全国）、Learning for All（葛飾・つくば）、MamaCan（松戸）、小豆島子ども・若者支援機構（小豆島）、子育て運動えん（大阪）だ。

もう一つ大事だと思っているのは子どもの声。上述したような「地域エコシステム」は「子どもの権利」が基礎となる。どういうエコシステムがよいか、ということではなく子どもとともに決めていく。また、子ども自身が自分自身のことについてどうしたいのか（例えば大学に進学したいのか、就職したいのか）。そうした子どもたちの声を尊重することができると社会を創っていく。そのため

に、VOICE事業としての活動を開始した。

上記に書いたことは「こういう方向だとどうだろう」というサポーターの皆さまへの提案でもある。どう思われるか、ぜひフィードバックをいただきたいと思っている。そして、同じこの社会に生きる市民とともに活動していきたいと思っている。私たち自身、日々悩みながら行動し、考え、そしてまた行動している。多くの先人たちの努力の成果を引き継ぎ、精力的に活動されている市民、政府、NPO・社会福祉法人、企業などとともに歩んでいく。目指しているのは、「誰もが生まれてきてよかったと思える社会」だ。そして人と人がお互いの尊厳を尊重しあえる社会を育んでいきたい。

## ③ 若者緊急基金プロジェクト



全国に食料を発送するMasterpieceのみなさん。物資そのものを越えた「つながり」の実感がありたいという声も

### 社会的養護を巣立ってから直面する「孤独」という問題。

社会的養護（児童養護施設や里親家庭など）で育った若者たちの多くは、18歳になると、親や養育者の後ろ盾がない状況でも、独り立ちをすることを求められます。そんな彼らは、コロナ禍ですます孤独な戦いを強いられています。

本事業では、一般社団法人Masterpieceと共同で、2021年1月の2回目の緊急事態宣言を受け、さらに生活が厳しくなった若者たちに対する緊急支援を実施しました。かものはしの資金だけでなく、クラウドファンディングにて集めた寄付を活用させていただき、109人の若者に、現金給付と食料サポートを行うことができました。また、サポートに応募された若者一人一人に状況を聞きながら、公的支援の情報提供などを行いました。

若者たちに実施した調査から、「4人に1人が仕事を失った」など、コロナ禍や緊急事態宣言が大きな打撃になっていることがわかり、「毎日1食カップ麺で食費を減らして生活しています」「時々一人が孤独すぎることがあります」といった、経済的にも精神的にも厳しい状況下にある若者たちの声が聞こえてきました。今回のサポートに対して、「いざという時に頼っていい場所があることは精神的な支えとなる」という感謝の声が寄せられると同時に、今後の不安も聞こえ、継続的に寄り添う存在の必要性を感じています。

期間  
2021年1月～2021年5月  
2020年度支出実績  
100万円  
※クラウドファンディングによる調達を含めた  
総事業費:440万円

## ① CI(コレクティブ・インパクト)事業

### 子ども・家族を地域みんなで支えて、育てる

NPO法人エティックとのパートナーシップで推進している事業です。地域の連携・協働を促進するハブ(媒介)になると期待し選考した6団体とともに、虐待、貧困、子育て・子どもの孤立などをテーマとしています。

3年間の事業の1年目を経て、例えば千葉県松戸市では、官民の支援者が集う地域円卓会議、子育てサポートブックの発行、子育てママ向けLINE相談、駄菓子屋キッチンカーなどが展開されています。

本事業は、休眠預金等活用事業の指定活用団体である一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)により、エティックが資金分配団体に採択されて実施しています。その期間が2023年3月までですが、終了後に独自の事業として延長・展開する可能性もあります。



それぞれの強みを発揮し、協力しながら問題解決に取り組む。

期間  
2020年4月～2023年3月  
2020年度支出実績  
500万円  
※休眠預金等を含む総事業費:3億3773万円  
(3年間/採択団体への助成金含む)

### 当事者の声を現場の支援や制度に反映させる

## ② VOICE事業

### 制度が当事者にとってより良いものになることを目指して

児童養護施設や里親家庭などにいる子どもや、施設や里親家庭での生活を経験した若者自身が声を上げることで、現場の支援や社会的養護の制度を当事者にとってより良いものにしていくことを目指しています。そのためにかものはしは、「現場で声が聴かれる環境の整備」「当事者を中心とした政策提言」に取り組んできました。

2020年度は、児童養護施設で暮らす子どもたちの声を聞き、施設運営者、そして政策形成の場に届けるといった活動や、かものはしのメンバーが子どもの声の代弁者(アドボケート)になるための学習を行いました。これらの取り組みは、当事者リーダー・当事者支援団体との協働によって行っています。



子どもに寄り添い声を聴く大人の存在が重要

期間  
2020年4月～2021年3月  
2020年度支出実績  
51万2783円

## 私たちの「ミッション」の変更に じっくり取り組んでいます

2010年代半ばから、ミッションの変更にに関する議論と対話を重ねてきました。現在のミッションである「子どもが売られない世界をつくる」という特定の社会課題を解決することにとどまらず、より広く深く社会に働きかける必要性を活動の現場にて感じていたためです。また、自分たちが生まれ育った日本社会において、虐待をうけるなど傷つく子どもが多くいるという現実を無視できませんでした。現在、じっくりと時間をかけて、ミッションの変更及びそれに伴う戦略・組織の変更に取り組んでいます。早く変更せねばと焦っていましたが、今はかものはしプロジェクトの根幹に関する大切なことなので、進捗を共有しご意見を皆さまにいただきながらじっくり決めていこうと考えています。

- ① 2020年に総会を開催し、特定の社会課題を対象としたミッションとはせず、より高次の理念である「尊厳を大切に」「ともに生きる」を据える方向性を事務局より提案をし、賛同を得ています。
- ② 児童買春・人身売買の課題について調査を行いました。約20年前に活動を開始した際の原点となった問題が現状はどのような状況なのかを客観的に調査をすることが、ミッションを変更するにあたって重要だからです。その結果として、この問題を取り巻く状況は大きく変わり、世界的に問題が解決している傾向にあることを再確認しています。
- ③ より幅広い視野を持ち戦略を構築するために、企業・政府関係者・市民社会組織などの有識者と議論を行いました。「ともに生きる社会を実現するためには」ということについて考えています。気候変動、テクノロジーの影響、格差の拡大、市民社会組織の可能性などについて多岐にわたって議論しています。
- ④ かものはしの10年後の未来像の「一つ」の可能性として、ローカル+グローバルという構想を持っています。各国・各地域で活躍するリーダーとともに各地域の密着した形でのローカルでの事業活動をするとともに、国や宗教を超えてより良い社会を育てていくリーダーのグローバルなネットワークを創っていくという構想です。
- ⑤ 良い事業を創り社会により貢献するために、組織の再構築が必要だと判断しています。組織内において、合意形成を重視する創立以来の文化がある一方で、活動に真剣に向き合いすぎるがゆえに衝突が多く、その結果、昨年度お約束した20年度中に「ミッションを決定する」ことを達成できませんでした。この点について反省しています。ミッションから豊かな事業が育つような組織を創っていくことを、ミッション決定よりも重視する判断をしています。

かものはしは2022年に創立20周年となります。その節目に新しいミッションの決定を目指します。

かものはしプロジェクト共同創業者  
本木恵介

## コロナ禍でも変わらぬご支援に 厚く感謝しています。

# 東京オフィスからの お知らせ

あたたかいご支援をいただき、  
本当にありがとうございます!!



2020年度は資金調達額が3億7千8百万円となりました。コロナ禍でも目標としていた資金調達額を達成することができ、日本のみならず世界中が不安定な中でも、インドと日本での活動を実施するための資金を確保することができました。

サポーター会員の方々は、14889人(2021年3月末時点)となりました。たくさんの方がかものはしの活動を応援してくださり、あたたかいメッセージや叱咤激励のお言葉をくださることは、私たちの日々の活動のエネルギーになっています。変わらず支えてくださっている方、新しくご支援い

ただいた方、本当にありがとうございます。

昨年度の年次報告書でもお伝えしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大は私たちの事業にも影響を及ぼしています。昨年4月に「緊急レポート」として、インドでの新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響をできるだけリアルタイムでお伝えしてきました。その後、ロックダウンによる失業やサイクロンの被害などで生活に困窮した方々への支援のお願いをさせていただきました。その結果、870人の方から1千6百万円のご寄付とたくさんの方のメッセージをお預かりしました。ご支援いただいた皆さま、本当に

ありがとうございました。

ご支援のおかげで、2020年5月から12月までの8ヶ月間に、のべ535人のサバイバーたちへ現金、食料、その他生活必需品の支給を実施することができました。また、この緊急支援期に体力と心をすり減らして働き続けたソーシャルワーカーの方々へのメンタルヘルスのサポートにも活用させていただきました。2020年11月末時点で、1千2百万円の緊急支援が完了しています。

まだまだ世界的な状況は厳しいですが、いただいたご支援を元に活動を続けてまいります。

# TOPICS in JAPAN

1

## 空がつかないインドと日本。特設ページ「#あなたを想って空に手を」を公開しました！



インドからも写真が届きました！

2020年はインドも日本も新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。その状況下で、支援者の皆さまからご寄付やあたたかい応援のメッセージをいただき、その想いをなんとかインドに直接届けたい、という気持ちから、「#あなたを想って空に手を」というページを公開しました。これまでに200件以上の投稿が日本全国とインドから届きました。写真とメッセージを通じてお互いを思い、励まし合うそんな繋がりが醸成されています。引き続き投稿を募集しておりますので、インドのサバイバーリーダーや、現地で活動する仲間へぜひ想いを届けていただけたら嬉しいです。

あなたを想って空に手を

検索



<https://www.kamonohashi-project.net/you/>

2

チャリティランナー募集します！

## 東京マラソン2021チャリティ・東京マラソン2022チャリティが開催予定です。



かものはしが寄付先団体となっている東京マラソン2021チャリティが2021年10月に、東京マラソン2022チャリティが2022年3月に開催予定です。東京マラソン2020チャリティはコロナ禍の影響で中止となりましたが、そのときに出走予定だったチャリティランナーの皆さまがそれぞれの大会で走ってくださる予定です。東京マラソン2022チャリティでは新規でチャリティランナーの募集もあり、新たなチャリティランナーの皆さまともお会いできることを楽しみにしています。

※チャリティランナーの募集時期は21年6月現在未定です。進捗があり次第WEBにてお伝えいたします。

かものはし 東京マラソン

検索



<https://www.kamonohashi-project.net/news/5234/>

3

気づきと学びをいただきました。

## 「広報・ファンドレイジング」について 専門家、サポーターの皆さんと考えました！

6月にかものはしのこれまでの広報・ファンドレイジング(以下FR)の取り組みについて考える会を実施しました。専門家・サポーター・正会員・かもカフェ!の皆さんの立場から良かった点・改善点、思うことを自由に議論していただきました。初めての試みでしたが、より「かものはしらしく」広報・FR・コミュニケーションを行うための「気づき」と「学び」をいただいた貴重な時間となりました。実際にどのような議論がされたのかは8月以降に皆さまにWEB上でご報告させていただきます。



## 社会問題を一緒に考える時間を

2021年5月時点で、未だ新型コロナウイルスの感染拡大は終わりが見えない状況です。かものはしの事務所がある東京都は緊急事態宣言が続き、職員同士ですら顔を合わせる機会がほとんどなく、コミュニケーションが希薄になっています。それだけで



初めて挑戦したオンライン総会の様子。対話も盛り上がりました

はなく、日々の報道や日本での事業を通じて、生活に困窮されている方々の声が多く耳に入ってきています。人それぞれ状況が違えど、今までの当たり前前が当たり前ではなくなり、何らかの変化を迫られているのが今の世界だと感じています。

その中で、かものはしプロジェクトではご支援いただいている皆さまと一緒に、社会問題を知り、理解し、考え、それぞれの価値観や考えていることを共有するための対話の場として、「かものはしダイアログ」を継続的に実施してきました。皆さまと対面で直接お話ししたかったのですが、コロナ禍においてそれは叶わずすべてオンラインでの実施でしたが、「自分が思う社会の生きづらさ」や「社会のここが気になる」というトピックなど、多岐にわたる対話の場を6回実施しました。その場を通じて我々スタッフにとっての気づきや学びもたくさんあり、参加

者の方々にとっても興味深い場になったのではないかと思っています。

今年はさらに対話の場を広げて、さまざまなトピックを色々な対話の形態にして続けていきたいと思っています。具体的には、以前から実施している「かものはしダイアログ」の継続、トピックをあえて決めずに、参加者の皆さまの興味関心を自由に話す場としての「お茶会」、ゼミのような形式で一つの社会問題を同じメンバーで複数回掘り下げていく会など、色々な会を考えています。

「知らない方々といきなり対話するのはハードルが高い。でも参加してみたい」というお声にもお応えするため、自己紹介も顔出しもせず耳だけの参加枠も設けておりますので、少しでも興味を持たれた方は、是非お気軽にご参加いただけます。

NEW ITEM!



パッケージは  
お菓子みたい



### PALM LEAF FAN

カンボジアのヤシの葉扇子(4色)  
税込 ¥2,750



### ひとづくり

#### コロナ禍でも学びを止めないために

工房を閉鎖せざるを得ない中でも、給料の補償をはじめ、カウンセリングやトレーニングなどのサポートを継続。困難を自らの力で乗り越える経験を通じて、作り手女性たちは大きく自信をつけ成長を遂げました。

成長した21人は3月末をもって卒業。新しいキャリアを歩んでいます。

これ、WEBで読めます!! 卒業ストーリー

### ものづくり

#### 数々の新商品開発に挑戦!

工房の稼働も不安定でしたが、作り手一人一人が責任感を持って取り組み、より良い商品を作るために試行錯誤を続けました。たくさんの努力とこだわりが詰まった新商品。一人でも多くの方に届きますように!

商品のこだわりはProduct storiesでじっくり解説!

これ、WEBで読めます!! Product stories



同封のSALASUSU Paper  
でも詳しく紹介!

### FROM SALASUSU TO JAPAN & CAMBODIA

#### SALASUSUのひとづくりは日本・カンボジア全土へ

教育の専門家としての認知やチャンスが広がり、オンラインでの研修・ツアーの提供、JICAやみてね基金、カンボジア労働省との産業人材育成プロジェクトが始動。今後より多くの人にSALASUSUのひとづくりを届けます。



### 3-DAY TRIP TOTE

3デイトリップトート(5色)  
税込 ¥18,700

人生の旅を  
楽しもう。

ENJOY YOUR LIFE JOURNEY  
SALASUSU



#### かものはしから自立し、3年。

2020年は、ひとづくりや組織の底力が育まれた1年でした。コロナ禍の困難にもスタッフ・作り手一丸となり、数え切れない試行錯誤で事業を進化させたこと、全ての事業において核となる哲学を確立できたことが、かものはしからの「自立」を確かなものにしました。

これまで、さまざまな形で私たちの活動を支えてくださった皆さま、本当にありがとうございます。ぜひ引き続き、見守っていただけると嬉しいです。

これ、WEBで読めます!! SALASUSUが大切にしている5つの哲学



NEW ITEM!

### TOE-RING SANDALS

トゥリングサンダル(3色)  
税込 ¥9,350

NEW ITEM!



### MINI BOX TOTE

ミニボックストート(4色)  
税込 ¥7,150



ONLINE STORE 掲載商品はこちら

salasusu オンライン

検索



http://shop.salasusu.com

WEBSITE 特設ページにまとめました!

これ、WEBで読めます!!

は、こちらから!



SNS

@salasufromcambodia

@salasusu

## 支えてくださった企業・団体の皆さま

**アサガミ株式会社**

**ABeam Consulting®**

アビームコンサルティング株式会社

**MFS**

MFSインベストメント・マネジメント株式会社

**OAK FOUNDATION**

株式会社ケアメディカル



こどもプラス株式会社・  
こどもプラスホールディングス株式会社

**CHILDREN'S INVESTMENT FUND FOUNDATION**

新日本管財株式会社  
互助会

**TAKAZONO**

株式会社タカゾノ

**TAGAYA**

株式会社タガヤ

**帝國製薬**

帝國製薬株式会社

データビズ合同会社



堂本製薬株式会社

**toyoko-inn.com**  
**東横INN**

株式会社東横イン

**トラストファーマシー**

株式会社トラストファーマシー

医療法人なごみなごみ診療所

一般社団法人  
日本漢方薬膳協会

環境と平和のNPO  
ネットワーク  
『地球村』

**みてね 基金**

医療法人結想会  
ゆいクリニック

**NEVER SAY NEVER**  
**ロート製薬**

ロート製薬株式会社

アースリードアテイン株式会社 / 株式会社アサヒインプレス / アステリア株式会社 / アネス株式会社 / 株式会社奄美郡島環境文化総合研究所 / アルファサーティースリー株式会社 / 医療法人ひまわり会 / 株式会社HRインスティテュート / FSX株式会社 / MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ / 有限会社エルジーエヌセミナーズ / 株式会社エルフ商事 / 株式会社エルローズ / 有限会社香取運輸 / 株式会社キッツ / キュービーグループ マッチングギフト「QPeace」 / 株式会社久保設備 / GlobalTreehouse株式会社 / 医療法人社団くろべクリニック 産婦人科 / 税理士法人古田士会計 / 株式会社CUD / シックスセンスラボ株式会社 / 株式会社ジョイメイト / 住友生命保険相互会社 / 株式会社スリースターコーポレーション / 株式会社SEIKO / 世田谷聖母幼稚園 / 有限会社ゾルゾ / 株式会社大公運輸 / 株式会社ダブルエーホールディングス / 株式会社電興設備 / DO DASH JAPAN株式会社 / 東京お茶の水ロータリークラブ / 東京ビジネスサービス株式会社 / 株式会社とりすえ / 株式会社永屋 / ハウジングスカイ株式会社 / 株式会社一庭野 / 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング / 株式会社古木企画 / 株式会社プロミッション / ペイトータルサービスジャパン株式会社 / Mindfulness with Emi / 三井化学株式会社 三井化学ちびっとワンコイン / 株式会社未来 / 森屋建設株式会社 / 横浜ロータリークラブ / 株式会社リオ・トラスト / 有限会社Relax / 株式会社ローヤルエンジニアリング

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご支援をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しております。

## 技術協力

アドビ株式会社 / アビームコンサルティング株式会社 / 油屋マネジメントコンサルティング / HTBエナジー株式会社 / 株式会社STYZ / MCリテールエナジー株式会社 / 株式会社コムニス / サイカンパニー / システムウェアアネクスコンサルティング / Steinbach & Partner / 株式会社セールスフォース・ドットコム / ソフトバンク株式会社 / 株式会社Deep Harmony / 株式会社デファクトスタンダード / デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 / ハーティン / ハチドリ電力 / 株式会社バリューブックス / 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング / 一般社団法人無憂樹 / モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所 / ヤフー株式会社

## コロナ禍でのかものはし職員・インターンの働き方へのケアに取り組みました。

これまで当たり前だった事務所勤務が今では貴重な時間です。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、政府や自治体から発信される情報に従って、在宅勤務の推奨とオフィスへの出勤頻度抑制と同時滞在人数の制限といった感染対策に取り組みました。また、職員、インターン同士会うことができない、自宅に家族がいる中での勤務などの環境変化からくるストレスに適應するためにメンタルケア勉強会や、必要に応じて専門家へつなぐことができる体制の整備に努めました。一部のサポーターの方からご心配のお声をいただいておりますが、1年を通して職員一同環境の変化にも適應でき、これまで同様に仕事に取り組みしています。引き続き、感染対策に加え、職員が働きやすい仕組みづくりに取り組みます。

## かものはしからのお知らせ



## セーフゲーディングポリシーを策定しました。

かものはしの事業活動に関わる子ども、搾取・虐待等被害の当事者といった人々を含め、すべての人たちの安全と権利が守られる環境をつくるために、セーフゲーディングポリシー(以下SP)を策定しました。かものはしではこれまで、2010年に策定した子どもの保護を目的としたチャイルドプロテクションポリシー(以下CPP)を運用してきましたが、CPPで見直しが必要な点を洗い出すとともに、より予防的な取り組みと安全な環境作りに重点をおくSPに移行することとなりました。今後はSPのかものはし内での浸透を目的とした研修の実施や、各部門で実施している事業活動のリスク評価の再実施と対応策の検討を進める予定です。

## かものはしへの参加方法

**イベント情報**

オンラインで毎月イベントを開催しています。お気軽にご参加ください。

かものはし イベント

検索

<https://www.kamonohashi-project.net/event/>

**ボランティア**

社会人ボランティアコミュニティ「かもカフェ!」では随時メンバーを募集中!

かものはし ボランティア

検索

<https://www.kamonohashi-project.net/support/volunteer/>

**WEB / SNS**



ホームページ



かものはしプロジェクト



@kamonohashirj



@kamonohashirj

## 会員情報の変更

ご登録いただいているお名前、ご住所、電話番号、メールアドレスや、引落口座、クレジットカード番号の変更などはWEBサイトからかんたんにお手続きいただけます。

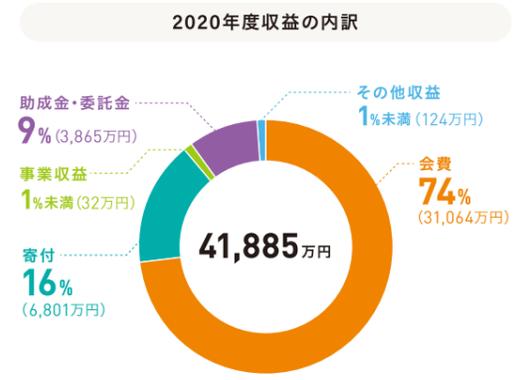
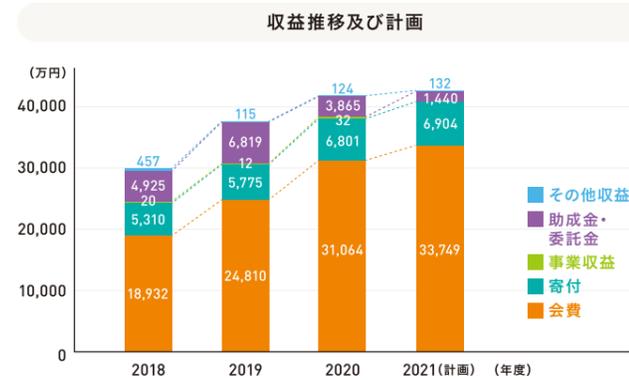
かものはし サポーター 変更

検索

<https://www.kamonohashi-project.net/forsupporter/>

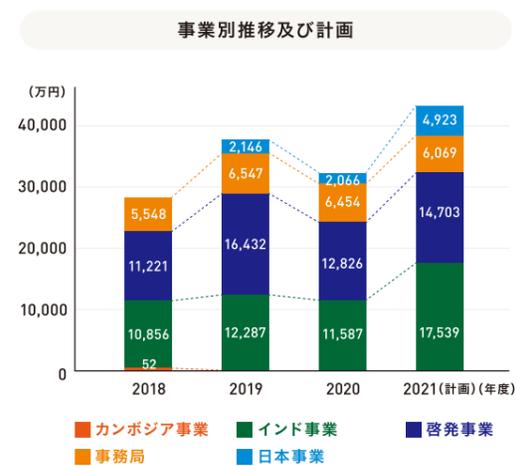
収益推移及び計画

2020年度の収益は、計画当初懸念されていた寄付金、及び会員会費収入の大幅な減少はなく、前年度比12%増の4.2億円となりました。世界的なパンデミックの発生する中でも、多くの会員会費、寄付に支えられ、事業活動を実施するための資金を確保することができ感謝しております。財務基盤を支えている会員会費収入は、WEB施策による新規会員が継続的に増加しており、前年比25%増となりました。一方、海外財団からの助成金は、イギリスCIBF財団の助成金が期中に終了し、スイスのOak財団(第二期契約は2019年9月から開始)のみとなり、前年比43%減の3千9百万円となりました。2021年度は、新型コロナウイルスの影響がある中で、多くのサポーターの方々から継続的に支援していただいている状況をふまえて、ほぼ前年と同程度の収入を見込んでおります。今後コロナウイルス関連の緊急支援の実施を含め、問題解決に向けた取り組みを実施するため、引き続きWEB施策を積極的に実施し、会員会費を伸ばさせ財源を確保していく予定です。



部門別費用推移及び計画

インド事業は、コロナ禍の影響を受けた現地の生活・心理面の状況を鑑み、当初計画の活動をペースダウンし、緊急支援を実施しました。法規制変化による現地NGOへの影響、為替変動も重なり、予算使用率計画比64%となりました。日本事業は、一昨年度より開始したパートナーとの協働事業を継続的に実施しており、予算使用率は85%となりました。啓発事業は、WEB施策の継続的实施により、予算使用率108%となりました。2021年度も、引き続き問題解決のためにインド・日本両国での活動を続けます。また状況を鑑み緊急支援の実施も想定しております。インド事業は前年比151%、日本事業は活動を拡大し約5千万円(前年比238%)、啓発事業は、前年比115%を計画しております。



会計監査の実施について

当法人では2017年度(第14期)より会計監査人による外部監査を行っております。監査対象となった財務諸表及び監査報告書はホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。今年度(第17期)の会計監査の結果に関して、財務諸表等がすべての重要な点において、財務諸表の注記に記載された会計の基準に準拠して作成されている旨の意見を頂戴しております。

活動計算書

(単位:円)

科目	17期(2020年4月1日~2021年3月31日)			18期(2021年4月1日~2022年3月31日)	
	当初計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加(%)
<b>経常収益</b>					
受取会費	284,873,418	310,637,000	109%	337,493,469	9%
受取寄付金	34,610,000	68,006,023	196%	69,040,000	2%
受取助成金等	33,324,667	38,650,394	116%	14,402,891	-63%
受託事業収益	-	-	-	-	-
事業収益	-	317,560	-	-	-100%
その他収益	792,000	1,236,601	156%	1,320,000	7%
<b>経常収益 計</b>	<b>353,600,085</b>	<b>418,847,578</b>	<b>118%</b>	<b>422,256,360</b>	<b>1%</b>
<b>経常費用</b>					
事業費	179,938,227	115,869,781	64%	175,391,169	51%
啓発事業	119,129,304	128,258,538	108%	147,034,016	15%
日本事業	24,246,294	20,664,896	85%	49,231,705	138%
事業費 計	323,313,825	264,793,215	82%	371,656,890	40%
管理費	67,096,221	64,541,565	96%	60,685,980	-6%
事務局					
<b>経常費用 計</b>	<b>390,410,046</b>	<b>329,334,780</b>	<b>84%</b>	<b>432,342,870</b>	<b>31%</b>
当期経常増減額	-36,809,961	89,512,798		-10,086,510	
当期正味財産増減額	-36,809,961	89,512,798		-10,086,510	
前期繰越正味財産額	106,430,947	106,430,947		195,943,745	
次期繰越正味財産額	69,620,986	195,943,745		185,857,235	

貸借対照表 (2021年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額		科目	金額	
	借方	貸方		借方	貸方
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	186,978,714		未払金		16,652,978
現金預金		186,978,714	未払法人税		70,000
未収金		31,133,889	1年以内返済長期借入金		88,000
前払費用		355,740	短期借入金		5,340,000
流動資産 計		218,468,343	預り金		2,650,357
固定資産	13,199,737		流動負債 計		24,801,335
(投資その他の資産)		1,092,000	長期借入金		12,015,000
固定資産 計		14,291,737	固定負債 計		12,015,000
<b>資産の部 合計</b>	<b>232,760,080</b>		<b>負債の部 合計</b>		<b>36,816,335</b>
			正味財産		
			前期繰越正味財産額		106,430,947
			当期正味財産増減額		89,512,798
			<b>正味財産の部 合計</b>		<b>195,943,745</b>
			<b>負債及び正味財産の部 合計</b>		<b>232,760,080</b>

その他情報(参考)

2019年10月にOak財団と3年間のTafteesh事業の実施に関する契約を締結しました。2021年4月から2022年11月までに、Oak財団とかものはしプロジェクトが以下を拠出する予定です。  
 ※日本円は読者の便宜のために提供するものであり、2021年3月31日の為替相場(1US\$=110.71円、単位未満切捨て表示)で換算しています。

	2年次残高 (2021年4月~2021年11月)		3年次 (2021年12月~2022年11月)		合計	
	USD	円	USD	円	USD	円
Oak財団	72,657	8,043,856	190,753	21,118,265	263,410	29,162,121
かものはしプロジェクト	211,826	23,451,256	385,210	42,646,599	597,036	66,097,855

**監事監査報告書**

2021年6月11日  
認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 監事

認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事長 本木 恵介 殿

私たち監事は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2020年4月1日から2021年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査した。その結果、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないことを確認した。また、貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る)は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。

堀口 哲朗  
 山本 龍太郎

この年次報告書は、サポートしてくださっている  
印刷会社さまのご協力により、  
ご寄付の一環として無償で印刷していただきました。  
長年の変わらぬご協力に感謝いたします。  
今回も緊急事態宣言のさなかに  
この年次報告書を作成しました。  
このような困難の中、変わらずご協力を賜り、  
皆さまに報告書を届けることができました。  
かものはしスタッフ一同、心から感謝いたします。



子どもが売られない世界をつくる  
認定NPO法人 **かものはしプロジェクト**

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
理事	青木 健太 / 伊藤 健 / 篠田 真貴子 / 村田 早耶香 / 本木 恵介 / 横山 十祉子
監事	樋口 哲朗 / 山本 龍太郎

かものはしプロジェクト

検索



<https://www.kamonohashi-project.net>

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、  
被害者個人が特定される写真は使用いたしません。  
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。